



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

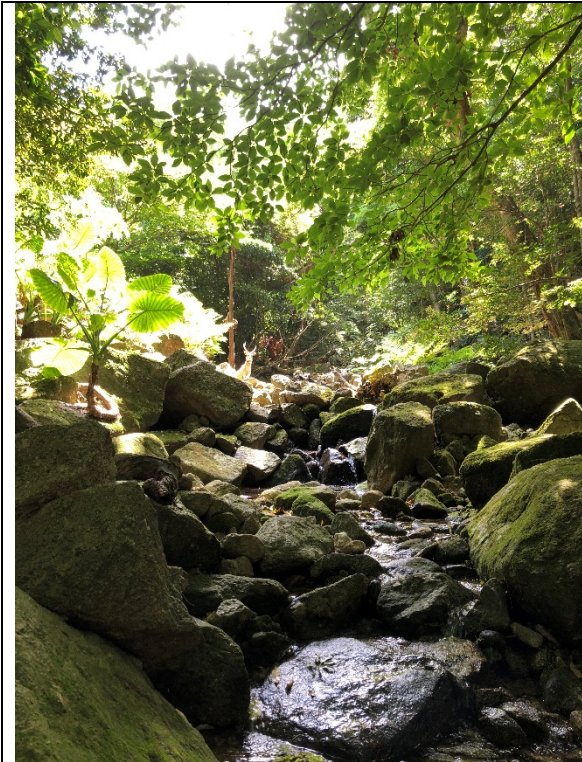
(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

令和1年 9月 24日	
所属部局・職	野生動物研究センター M1
氏名	大西絵奈

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)	
日本、屋久島	
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)	
屋久島実習	
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)	
令和1年5月25日 ~ 令和1年5月31日 (7日間)	
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)	
京都大学霊長類研究所、半谷吾郎准教授	
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)	
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くて結構です。	
<p>今回の実習では、事前に振り分けられた2班に分かれて屋久島でそれぞれ研究に取り組んだ。私はヤクザルとヤクシカに集まるハエの比較を行うグループに配属され、ゲノム実習ではヤクザルの糞の解析を行った。結果、ヤクザルの糞にヤクシカの糞よりも多くのハエが集まることを発見した。</p> <p>生態学的な視点からの研究は、どんな種を調べる上でも不可欠だと感じた。基本的な研究のスキルを実践的に学ぶことができた今回の実習は、これから個人の研究をするうえでも非常に有意義な練習になった。</p>	
	フィールドステーション付近ではアカウミガメを観察することもできた。
	ヤクシカの糞。ここに集まるハエの数をカウントする。

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



画面中央にヤクシカ。糞をするのをひたすら待つ。



ハグハグをするヤクザル。道路沿いにいることが多い。

6. その他 (特記事項など)

今回の実習では、霊長類研究所の半谷吾郎先生をはじめとする多くの方のサポートを受けました。指導していただきましたすべての先生方、TAの方に感謝いたします。